

都 有 施 設 だ よ り 第18号

都有施設の計画的な維持管理更新、都の施策を反映した都有施設の機能・性能のレベルアップなどの取組についてお知らせします。

今回は**東京都江戸東京博物館の大規模改修**をご紹介します！

東京都江戸東京博物館の大規模改修

< メインエントランス >



< 日本橋と現代と江戸の空を再現する映像 >



Point!

利便性・バリアフリー機能の向上

収蔵品を活用した
空間演出と展示の
アップデート

環境負荷への
配慮

江戸東京博物館 のリニューアル



リニューアル概要

所在 墨田区横網1-4-1

階数 地上7階、地下2階

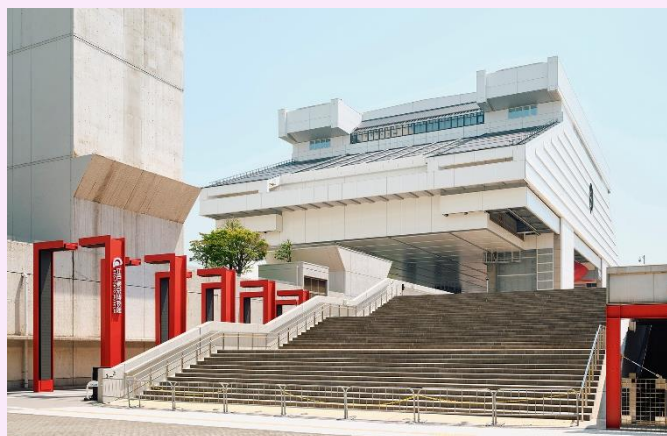
開業 平成5年3月28日

工期 令和4年4月から令和8年3月まで

再開館 令和8年3月31日

本施設は大規模改修による四年間の休館を経て、令和八年三月三十一日にリニューアルオープンしました。江戸東京の歴史と文化に囲まれた空間を多くの人に楽しんでもらえる「東京のアイコン」を目指す施設となっています。歴史資料に加え、原寸大模型や空間演出をさらに充実させ、江戸以降の時代の歩みをより体感しながら学べる空間へと進化しました。

< 施設の外観写真 >



施

設の改修内容とし

ては、施設老朽化への対応・機能改善、利便性・バリアフリー機能等の向上、環境負荷への配慮、収蔵品を活用した空間演出と展示のアップデートなどを行いました。次ページ以降で改修内容の詳細について紹介します。

利便性・バリアフリー機能の向上

＜大ホールホワイエ前吊りサイン＞



＜バリアフリーストイレ＞



＜北エントランス＞



清

澄通り（都営地下鉄大江戸線両国駅側）から来館される方への雨天時の配慮として歩廊を増設しました。増設した歩廊には、太陽光により表面の汚れを分解する効果のある素材を採用しています。また国技館（JR両国駅西口側）からメインエントランスまでの動線上にはLED照明による光天井を採用し、安全でわかりやすいアプローチとしました。

また、一階チケットうりば横に、バリアフリーストイレを2箇所新設しました。さらにオストメイト設備を本館内すべてのバリアフリーストイレに整備しています。

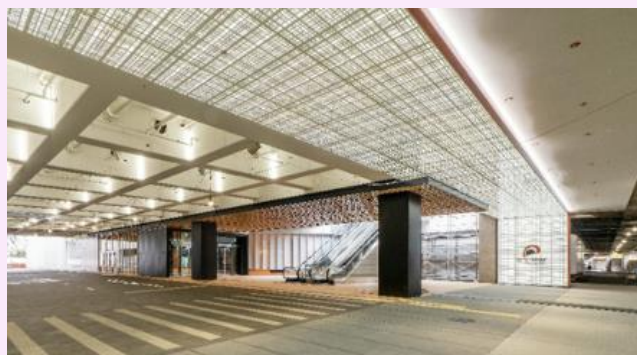
そして、館内サインについては、館のロゴタイプが発信するメッセージの一貫性を保つとともに、誰もが読みやすいサインとなるよう「ユニバーサルデザインフォント」を採用しました。さらに、エントランスホールの既存壁を撤去してスペースを広げ、明るく開放感のある空間へ改修しました。チケットうりばの壁面・カウンターには多摩産材を採用し、壁面の一部は伝統的な左官の技術で仕上げました。

環境負荷への配慮

＜館内の設備機器の改修＞



＜LED照明による光天井＞



敷

地内に太陽光発電設備を設置し再生エネルギーの活用推進に努めています。また、照明もLEDに更新したほか、人感センサーを導入する等、省エネルギーも行いました。

そして、収蔵品を適切に保管するため、年間を通じて空調管理する必要があります。改修により、冷房用のエネルギーを作り出す際の排熱で暖房用のエネルギーも作り出す機器（熱回収ヒートポンプチャラー）を導入し、さらに作り出した熱を既存蓄熱槽に貯め、最大限空調設備に利用することで更なる省エネルギー化を図りました。

さらに、ZEV普及のために、電気自動車充電スタンドを駐車場に設置しました。

収蔵品を活用した空間演出と展示のアップデート

< 1階西側アプローチ >



< 3階江戸東京ひろば >



東

京のアイコンとなる博物館を目指し、日本人建築家・重松象平氏がパートナーを務める世界的建築設計事務所OMAとともに、館内外の空間デザインを行いました。

一階西側からのアプローチには、現代から江戸への没入感を高めるため、「鳥居」をモチーフとしたオブジェを設置しました。

そして、三階江戸東京ひろばでは、収蔵品を活用した大型映像の投影を行うほか、常設展示室内では、現代と江戸の空を再現する映像を投影するなど、来館時の鑑賞体験を高める演出を施しました。

< 常設展示室の中村座 >



< 常設展示室の服部時計店 >



常

設展示室内に設置している大型模型「朝野新聞社」を、史実に基づき「服部時計店」へと改修しました。

また、来館者から寄せられた声に応え、芝居小屋「中村座」を内部に入ることができる仕様へと変更しました。

そして、江戸の暮らしや文化を肌で感じていただけるよう、江戸の庶民に身近であった街中での「朝顔売り」や「天麩羅」の屋台などを新設し、江戸の街並みを展示室内に再現しました。

< 天麩羅屋台 >

